

令和3年度たがみ台保育園における自己点検及び自己評価の結果

令和4年2月実施

実施期間・[令和4年2月1日～2月28日実施]

評価基準・[A:かなりできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない]

評価方法・[A:4 B:3 C:2 D:1と換算して平均を出した。]

常勤・非常勤の全職員から提出された自己評価票を園長がまとめた。

	自己評価の観点	評価	意見・改善策
I 保育の計画性	1、園の保育理念・保育方針を理解している。	B	・前年度にカリキュラムの見直しを行った事で、職員の理解や計画の立てやすさに繋がったと思う。
	2、保育所保育指針を理解していると思う。	B	
	3、園の全体的計画を理解していると思う。	B	
	4、指導計画の作成 ○指導計画は、保育指針・全体的計画・園児の実態等をもとに作成している。	B	・子どもの動線や視線に配慮した環境構成の見直しができた。今後は、季節感が感じられる環境が課題であると思う。
	5、環境の構成 ○安全で清涼感のある環境構成をしているか。	B	
	○園児が自ら活動を展開していけるような場や構成をしているか。	B	
	○園児の動線や目線に配慮した環境構成をしている。	B	
	○季節の変化に応じた環境構成をしている。	C	評価の中で、次のねらいを持った評価が行えるようになってきた。クラスごとの公開保育を計画していきたい。
	6、保育と計画の評価・反省 ○自分の保育と計画の評価と・反省は行うようにしている。	B	
	○評価反省を次の保育と計画に活かせるように行っている。	B	
○自分の保育を公開して、それをもとに検討しているか。	C		
II 保育の在り方・園児への対応	1、健康と安全 ○登園時は視診や検温により園児の体調が悪くないか確かめている。	A	・コロナ禍の中保健衛生リーダーを中心に安全面、衛生面には十分すぎる程 配慮を行い保育に努めた。ケガ発生時にも、すぐに分析をして再発防止に全職員で心がけた。
	○体調が悪そうなときは静かに寝かせたり検温をしたり適切な処置を行いすぐに家庭に連絡している。	A	
	○園内に危険な個所や物がないか、危険な遊び方はないか観察している。	B	
	○事故や怪我が発生した時は、園長に報告したり保護者に連絡取ったり医者に診てもらするなど適切な処置を行っている。	A	・「子ども尊重とは」を、年間の目標に掲げ全職員子ども理解に努めた年度であった。
	2、乳幼児の理解 ○一人ひとりの園児をよく観察するように心がけている。	B	
	○園児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている。	B	・行動分析の先生との勉強会も通し子どもの姿の内にある心の動きにも注目した。
	○園児の理解のために保護者と話し合うことがある。	B	
	3、指導とのかかわり ○園児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、関わり方をしないようにしている。	B	・また 個人面談を全家庭と行い、子どもの成長発達について保護者と保育園の共通理解ができたように思います。
	○園児の気持ちに共感しながら一緒によく遊んでいる。	B	
	○園児の話をよく聞くようにしている。	B	
	○園児を褒めたり励ましたり、目当てを持たせるような言葉かけをしている。	B	
	○園児の個性や性格、特徴に応じた関わり方をしている。	B	
	○[先生のようにやってみたい]と園児が思う立ち振る舞いを心がけている。	B	

	自己評価の観点	評価	意見・改善策
	4、保育者同士の協力と連携 ○園児について保育者間で話し合い、クラスを超えて情報を共有している。	B	・ラインやイロドリで、共通理解がしやすくなったが、確認の必要性を思う。(誰が目を通したか)
	○指導上必要な園児については、職員全体で話し合い、共通理解を持ち対応するようにしている。	B	
Ⅲ 専門家としての 資質(能力・良識・適性等)	1、専門家としての能力・良識・義務 ○園児の性格や個性を把握するように努めている。	B	・保育士一人ひとりが良識ある態度で専門職としての自覚が窺える。 ・保育の楽しみや子どもの成長とともに喜ぶ職員の姿や、気になる事や困ったことがあると副主任、主任に相談する姿も多く、園長への報告もスムーズである。 ・コロナ禍で研修の機会が減ったため次年度は、工夫をして全職員が研修に望めるよう配慮していきたい。  ・個々の保育士の得意を生かせるような配置や計画に取り組んでいきたい。
	○朝と帰りのあいさつは、明るく元気に親しみをこめている。	A	
	○何かをしてもらったら感謝の気持ちを言葉等で表している。	A	
	○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	A	
	2、組織の一員としての在り方 ○子どもの事やクラスの出来事で必要な事は、園長や主任に報告・連絡・相談をしている。	A	
	○職員や園の批判を軽はずみにしていない。	A	
	3、保育の楽しみ・喜び ○園児のささやかな成長が理解でき、それを喜ぶことができる。	A	
	4、周りを感じ取れる感性 ○保育や子育てに関する情報を絶えず捉えようとしている。	B	
5、研修と研究 ○研修会には課題を持ち進んで参加している。	B		
	○園の遊具や教材、機材について基本的な使い方を知っている。	B	
	○障がいのある園児に対応する保育のあり方を学習している。	B	
Ⅳ 保護者への対応	1、情報の発信と受診 ○クラスや子どもの様子、保育ポイントをクラスだより等で知らせている。	B	・イロドリ活用で保護者の方にも良いようです。来年は、動画発信を計画していきたいです。  ・守秘義務は、定着している。  ・保護者からの相談や要望、クレーム等も、相手の気持ちになって考え、担任、副主任、主任、園長と共に対応していきたい理事長の判断を仰ぎました。
	○個々の子どもの様子は、直接話したり連絡帳を使ったりして伝えている。	A	
	2、協力と支援 ○保護者からの様々な訴えや意見要望については、安易に受けたり断ったり無視したりしないで園長や主任に報告や相談をしている。	A	
	3、守秘義務の遵守 ○保護者の住所・電話番号や個人情報の管理は、園の方針に従っている。	A	
	4、対応 ○電話は相手が見えない為に誤解が生じやすいので、手短かに簡潔に要領よく対話することを心がけている。	B	
	5、クレームへの対処の仕方 ○保護者からのクレームがあった場合は、謙虚に話を聞き、園長に連絡・報告・相談している。	A	
Ⅴ 地域との関わり	○地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている。	B	・コロナで地域との交流が減少したが、町内会長さんや老人会の方の声掛けや協力が得られていることに感謝しています。
	○卒園児の情報を得るよう努めている。又は努めようとしている。	B	
	○子育て支援のあり方について職員全体で話し合っている。	C	
	○地域の行事や祭りに積極的に参加したり、協力したりしている。又機会があれば協力しようと思う。	B	